



初めまして、<ゆす農園の常長>です

岡山県・旭川沿いに位置する御津。豊かな土壌と水源に恵まれたのどかなこの地 『ゆす農園』の圃場があります。

2023年で就農3年目。2年間の研修を経て2021年4月に独立し、岡山県独自のブランド農産物『おかやま有機無農薬農産物』を生産する圃場の認証を受けました

栽培・経営概要

栽培面積

野菜35aハウス1a

栽培品目

少量多品目30品目80品種

病虫害対策

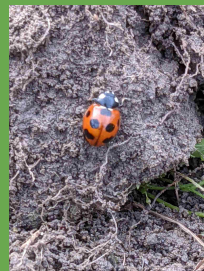
防虫ネット、太陽熱養生

施肥

カンポウランド、米ぬかぼかし、発酵堆肥、他

販売先

良品計画、ウエル、レストラン

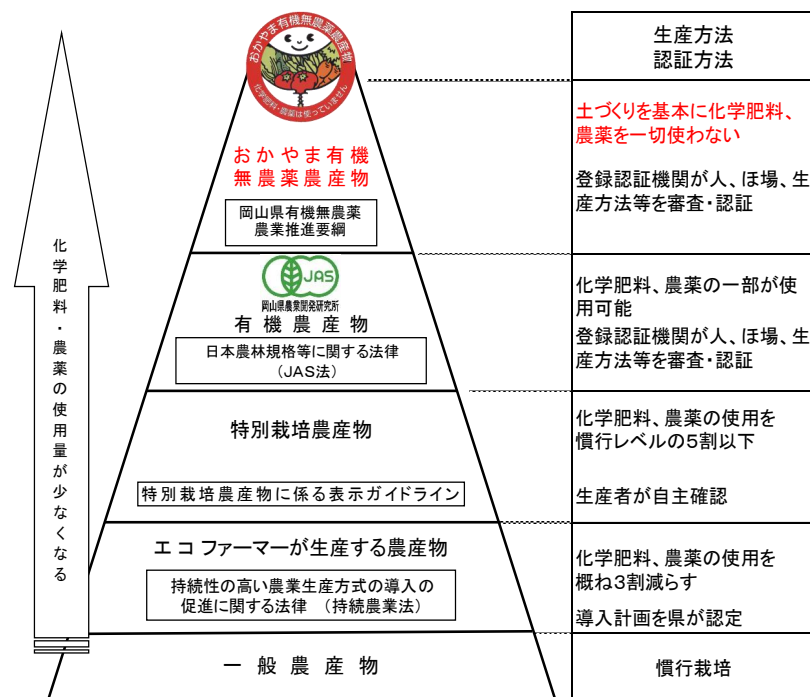


I おかやま有機無農薬農産物とは？

岡山県では、化学肥料・化学合成農薬に依存しないで、有機物を中心とする土づくりを基本に、自然の生態系を重視した有機農業を推進するために、全国に先駆けて、昭和 63 年度に岡山県有機無農薬農業推進要領を制定し、有機無農薬農産物の認証制度をスタートしました。

おかやま有機無農薬農産物は、有機 JAS 規格を満たした上で、更に厳しい化学肥料や農薬を一切使わない独自の規格を設け、岡山県が認証した農産物です。

【おかやま有機無農薬農産物とその他の栽培方法の農産物の位置づけ】



【岡山県におけるこれまでの取組】

昭和 63 年	岡山県有機無農薬農業推進要領を制定し、取組スタート
平成 元 年	岡山県有機無農薬農産物認証要領の制定、販売店の指定開始
平成 13 年	有機 JAS 規格の制定（平成 12 年）を受け、「おかやま有機無農薬農産物」の認証制度で再スタート（有機 JAS 規格を包含）
平成 15 年	特別栽培農産物表示ガイドラインの改正で「無農薬」表示が禁止されるが、「おかやま有機無農薬認証制度」に基づき認証された農産物は、「有機○○」の表示とともに「おかやま有機無農薬認証農産物」と表示し、ブランドマークは引き続き使用することとなった。
平成 19 年	料理提供店の指定開始

【おかやま有機無農薬農産物と有機 JAS 規格の違い】

区分	おかやま有機無農薬農産物	有機 JAS 農産物
肥料・ 農薬	化学肥料、農薬（天敵を除く※）は、 <u>一切使用しない</u> 。また、使用できる資材は、有機質由来の資材のみ。 例）堆肥、菜種油かす、魚かす、米ぬか、骨粉、かき殻など ※天敵とは害虫を食べてくれる昆虫のことです。	化学肥料、農薬は、原則使用しない。 やむを得ない場合は、一部の化学肥料、農薬を使用できる。 例）・肥料：消石灰、硫黄、ようりん、微量元素など ・農薬：除虫菊乳剤、マシ油、銅水和剤など
認証 機関	・（一社）岡山県農業開発研究所	・（一社）岡山県農業開発研究所 ・岡山県を認証地域としている県外の登録認証機関
認証 マーク	  岡山県農業開発研究所 認 証 番 号	 岡山県農業開発研究所 認 証 番 号

有機 JAS 規格に基づき、農林水産省で登録された認証機関によって、検査・認証を受けた食品だけに、有機 JAS マークの貼付と、「有機」、「オーガニック」などの表示をすることができます。

今後課題

1. 土壌改良(土を育てる)
2. 販売先の充実化(収入安定)
3. 機械設備導入による省力化(投資)

今後の取り組み

1. 農地の確保(認定に年数が掛かる)
耕作放棄地の再構築
2. 地域貢献
(直売所、キッチンカー、農業体験)
3. 新規就農者のサポート(メンバー確保)



(おかやま有機無農薬認定農産物)



岡山県農業開発研究所

岡山県産 認定番号 生産 068 号

